

赤城やまなみチャレンジキャンプ

～目指せ！赤城全山制覇！！～

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、8月13日（土）～20日（土）の7泊8日の日程で、教育事業「赤城やまなみチャレンジキャンプ～目指せ！赤城全山制覇！！～」を開催しました。

この事業は、豊かで便利な生活の普及により生活体験や自然体験が不足している中、仲間と一緒にテント泊をしながら赤城の山々を巡り、困難に立ち向かう心や仲間を思い協力する心、自然に対する畏敬の念や周囲の人への感謝の気持ちを育むことをねらいとして開催されました。具体的には、赤城山を構成する主要な七山（黒檜山・駒ヶ岳・鈴ヶ岳・地藏岳・長七郎山・荒山・鍋割山）を踏破することを目標とし、国立赤城青少年交流の家、前橋市赤城少年自然の家を拠点に7泊8日で行われました。参加対象は小学4年生から中学3年生までで、群馬県を中心に関東近県から16名（男9名・女7名：小学生15名・中学生1名）の参加がありました。

【事前説明会及び交流会】

7月24日（日）をキャンプスタートの日として、参加者と保護者全員に集まっていただきました。初めに、参加者・スタッフ・ボランティアとの顔合わせを行い、事業の趣旨説明を行った後、保護者への説明会と並行して参加者とスタッフ、ボランティアによる交流会（レクリエーション）を行いました。キャンプのスタッフや仲間との交流を行うことにより、当日を迎える緊張を和らげることをねらいとして実施しました。

【1日目】テーマ「登山の準備をしよう」：国立赤城青少年交流の家泊

キャンプ初日がスタートし、少し緊張する様子もありましたが、仲間づくりのゲームや班での活動をしていくことで少しずつ緊張もほぐれてきました。この日は、キャンプの準備として、テントを建ててみたり、木製の名札づくりをしたりしました。また、行動作戦会議として班装備や個人装備の確認、個人や班の目標決めなどをしました。午後には夕食に向けて、仲間と一緒にピザ作りをし、お互いの距離が一段と縮まりました。



【2日目】テーマ「赤城から富士山を眺めよう」：前橋市赤城少年自然の家泊

— 鍋割山 —

キャンプ2日目、いよいよ山歩きスタートの日です。マネジメントスタッフ、交流の家職員に見送られながら小雨の降る中、岩場の険しい鍋割山を目指しました。

鍋割山登山口まで1時間ほど車道を歩き、本格的な登山道に入りました。初めから急な登りがあり、少し進むと岩場になりと初日としては、厳しいコースでしたが、慣れない足場を慎重に確認しながらも、声を掛け合って楽しく歩くことができました。残念ながら富士山は眺められませんでした。徐々に雨も上がり、頂上では登山の達成感を感じながら、ガス器具でお湯を沸かしての昼食をとりました。宿泊地である前橋市赤城少年自然の家に到着後は、協力してテントを建て、少年自然の家の食堂で夕食を食べ、お風呂に入り早めに就寝しました。



【3日目】テーマ「赤城山の自然を楽しもう」：前橋市赤城少年自然の家泊

— 長七郎山 —

この日は、早朝から自分たちで作った朝食を食べ、長七郎山に出発しました。

霧に包まれた小沼を眺めながら長七郎山に向かうと、登山口から 20 分ほどで山頂に到着しました。

その後鳥居峠で御神水を汲みました。雨の中ではありませんでしたが、励まし合いながら 300 段以上の階段を往復し、全員で困難に打ち勝つということを実感しました。汗を流し、声を枯らして応援した後のソフトクリームは格別だったようです。

テントサイトに戻って、夕飯作りです。自分達で餃子の一つ一つ丁寧に包み込み、この日は自分達で朝晩と食事を作り、食事を作ってもらえることのありがたさ、登山のためにいろいろな面で支えられていることを感じることができました。



【4日目】テーマ「激しい起伏を乗り越えよう」：前橋市赤城少年自然の家泊

— 鈴ヶ岳 —

この日からは本格的な班行動のスタートです。今どこを歩いているかを地図で確認したり、休憩をどこでするか決めたりと、自分たちの行動をメンバーみんなで相談しながら決定していきます。

天候にも恵まれ、眺めの良い稜線から大沼を見下ろす光景に感動しました。また、鎖のかかる岩場では上級生が年下の子を気遣う様子も見られ、メンバー同士の絆はより深いものになっていきました。昼食後は2時間ほどかかる長い登りがまっていたましたが、各班ともチームで協力しながら歩ききることができました。



【5日目】テーマ「自然のすばらしさを満喫しよう」：前橋市赤城少年自然の家泊

— 地蔵岳 —

当初地蔵岳で朝日を見る登山を行う予定でしたが、台風の影響もあり、予定を変更して8:00頃から地蔵岳に登りました。台風が過ぎた後で気持ちよく晴れ、昨日歩いた大沼周辺の様子をゆっくり眺めることができました。山を下りてきた後は大沼でカッターボートに乗りました。全員が同じ船に乗り、かけ声を掛け合いながら、心を1つにしてオールをこぎました。この日は予定通り洗濯もでき、自分達で活動に必要な衣服やタオル等を管理するということについても考えました。

午後は班ごとにカレー作りに挑戦しました。何度目かの炊事で火のつけ方や調理などにもだいぶ慣れ、手際よく進めることができました。



【6日目】テーマ「日本百名山にチャレンジしよう」：前橋市赤城少年自然の家泊

— 黒檜山 —

キャンプ6日目、この日はいよいよ日本百名山にもその名を連ね、赤城山最高峰でもある「黒檜山」に挑戦です。前日のミーティングで班行動を確認し、並び順や歩くペースなどを工夫しながら歩きました。お昼少し過ぎた頃には、黒檜山、駒ヶ岳を登り終え、大沼湖畔に降りて来ることができました。その後は各班で計画を考え、ゆっくりテントサイトで過ごす班や赤城神社に行く班などそれぞれ過ごしました。

夜の行動作戦会議では山歩き最終日を班のメンバーとどのように過ごすか、自分たちの班はどんな雰囲気で行きたいのかなどを真剣に話し合いました。



【7日目】テーマ「赤城全山を制覇しよう」：国立赤城青少年交流の家泊

— 荒山 —

キャンプ終盤の7日目、この日「荒山」に登ると、ついに全山制覇となります。疲れもあり、心身ともに少しトラブルもありましたが、ピンチをチャンスに変えて、各班まとまりをさらに強め、ゴールへと向かいました。ゴールとなった交流の家では、スタッフが手作りした横断幕が出迎え、全員無事感動のゴールを迎えることができました。

夜には、キャンプファイヤーを行いました。みんなでレクリエーションをしたり、班やスタッフの出し物をしたりして楽しみながら最後の夜を満喫することができました。最後には焚き火を囲んで班ごとにお互いのがんばりを称え、振り返りを行いました。

また、班ごとに最後のミーティングも行いました。キャンプで学んだことを思い出し、1人1人が自分の成長を実感するとともに、決意を新たにした時間となりました。



【8日目】テーマ「8日間の冒険を締めくくり、新たな旅立ちへ」

この日はいよいよ最終日、長いようでも終わってしまうとあっという間の8日間でした。お昼にバーベキューパーティーで最後の食事を楽しみました。その後は全員講堂に集合し、保護者の方も一緒に「出発式」を行いました。班ごとに自分たちの決意を発表しました。これまでは「班として、明日はどう行動するか」を考えていましたが、この日は「各自がこれからどう生活していくか」を考えました。



まとめ

「挑戦・協力・感謝」というテーマを掲げ、仲間との登山に取り組みました。毎日の山歩きやテントでの生活、早起きなど、参加したすべての人が期間中に多くの「挑戦」をしました。そして、それを互いに支え合う仲間の存在に気づき、そこから「協力」を学ぶことができました。また、大変なチャレンジの合間に自分達で食事を作る日もあったり、生活の基盤となるテントの設営、撤収を行ったりすることを通して今回のチャレンジがスタッフに支えられながら行われていることに気づき「感謝」の気持ちが芽生えていきました。悪天候に見舞われる中、たくさんのチャレンジを1つ1つクリアしていくにつれ、たくましく成長していったように感じます。そして、それを裏付けるように、子どもたちの表情は日に日に自信に満ちたものになっていきました。

キャンプを通して感じた「挑戦・協力・感謝」の気持ちを今後の普段の生活でも意識し、活かすことで、さらなる成長を願っています。

担当：企画指導専門職 田野崎 和人